

338) ふるさと

ふるさとの白い雲 あの日々はかえらない
あしおと
跣音を追うように 走ってく通り雨
道端の樹の下で 濡れていた黒髪よ
逢いたくて逢いたくて ふるさとのあの少女^{ひと}

ふるさとの碧い空 あの日々はかえらない
木もれ陽が踊ってた 公園の並木道
さりげなく腕組んだ 柔肌の温もりよ
恋しくて恋しくて ふるさとのあの少女^{ひと}

ふるさとの広い海 あの日々はかえらない
砂浜を駆け足で 潮騒と戯れた^{たわむ}
重ね合いふるえてた 薄紅の唇よ
いと愛しくて愛しくて ふるさとのあの少女^{ひと}

ふるさとの遠い夢 あの日々はかえらない
東京へ旅立つ日 陽炎が揺れていた^{かげろう}
さよならの唇づけに 泣いていたあの瞳
哀しくて哀しくて ふるさとのあの少女^{ひと}

ふるさとの思い出も あの日々もかえらない
若き日の幻も あの少女ももういない^{ひと}
人ごみに逆らって ただひとり生きている
ふるさとのふるさとの ふるさとのあの日々